

7月7日の七夕は「しちせき」とも読み、五節句の一つです。

七夕とルーツを同じくする星祭りは日本に限らず、中国・韓国・ベトナムなどにもあります。牽牛星^{けんぎゅう}と織女星^{しよくじょ}、二つの星の出逢いを願うのですが、日本には七夕に飾られる人形もあります。七夕人形について調べました。

節句人形
素朴なギモン



長野県松本市の七夕人形

画像提供：村山人形店

一部地域に伝承される

七夕の節句に飾る人形を七夕人形という。この人形は長野県松本市周辺、新潟県糸魚川市、富山県黒部市、山梨県山梨市と甲州市、兵庫県姫路市などで飾る風習がある。

とりわけ長野県松本市とその周辺の大町市は人

形の種類が多く、飾る家も多い。松本の七夕人形にはさまざまな様式が見られるが、大きく分けると「着物掛け型」「紙雛型」「流し雛型」の3つがある。

七夕人形に込められた願いとは……？

着物掛け型は、板製の上半身に腕木を付けた男女一対の人形。これに着物を掛けて頭上の留め具に紐をつけ、軒先に吊るす。見た目は顔つきのハンガーといったところである。

紙雛型は男女一対の紙製の吊り人形で大小あるが、大きなものでは80～90センチある。流し雛型は色紙で作った簡単な一対の雛で、七夕に飾ったあと川に流す。

七夕人形を飾る理由は、子どもの健やかな成長を願うものだが、着物を着せて飾ると「もっとよい着物が返ってくる」という言い伝えもある。江戸中期の随筆などに、人形を飾る記載があることから、松本では江戸中期に始まったものと考えられている。

新潟県糸魚川市の根知谷^{ねちだに}では、七夕に道を横

切って張った綱に「嫁さん」「婿さん」と呼ばれる男女一対の人形と、そのお供の人形などを飾る七夕人形の綱飾りがある。

また富山県黒部市では大型の姉様人形^{*}を作り、木製の台に固定して立て七夕のとき集落の小川に女の子が押して流す。流し雛型の七夕人形である。

一方、山梨市市川・甲州市勝沼町では、七夕紙で作った男女一対の七夕人形を笹竹に飾る。足の部分の紙は切って長く垂らす。

姫路では市川周辺の地域に「七夕さんの着物」と呼ばれる男女一対の紙衣がある。2本の笹竹の間に渡した竹竿に紙衣の袖を通して飾り、子どもが着物に不自由しないようにという願いを込める。

^{*}姉様人形（あねさまにんぎょう）

少女がままと遊びなどに使った紙人形で、衣裳は主に千代紙などで作成した。